それより相襲ぎ、元祿十年澤田市之丞が命せられた後連綿して一人役であつた。

カイシン　契心　→ギドウカイシン　宜道契心。

カイゼン　快禪　小松の人。幼にして淨土宗誓願寺に入り、佛事を習つたが得る所なく、唯師僧の圍碁を見て忽ちその技に達した。乃ち金澤に出て曹く碁名あるものと鬪ひ、次いで東都に至り、傳通院に寓して本因坊道策に學び、駿河の猶無と技を角して、一局は輸し一局は贏つた。是に於いて碁名益顯れたが、快禪は遂に段に上るを肯ぜず、江戸に留ること數十年の後鄉に歸る途、信濃に於いて病歿した。

カイゼン　快全　→キタムラエジョウ　北村惠乘。

カイセンジ　開闡寺　能美郡小松に在つて、眞宗東派に屬する。

カイセンジ　皆善寺　鹿島郡閘に在つて、眞宗東派に屬する。

カイセンジ　海禪寺　石川郡金石に在つて、淨土宗に屬する。享保五年和譽の再建といふ。

カイセンジ　海前寺　鳳至郡宇出津に在つて曹洞宗に屬する。貞享二年の書上に、天文廿一年同所常椿寺の僧德岩春播の開創。もと棚木の城中に在つて東丘寺と稱したといひ、黑瀧長與市景連の位牌がある。

カイゼンジ　開禪寺　金澤六斗林にあつて、華嶽山と號し、曹洞宗に屬する。もと鹿島郡田鶴濱に在つて、珠巖道珍之を創立した。長氏歷世の位牌所であつたが、その地遠隔にして參拜に不便であつたから、長連龍は前田利常に請ひ、慶長十七年泉野に寺地を得て之に移し、後今の所に轉じた。

カイゼンジアゲチマチ　開禪寺上地町　金澤の舊町名。三間道少林寺の並びなる町家を呼んだらしいが、今は絕えた。

カイソ　鹿磯　鳳至郡七浦庄に屬する部落。天正十五年前田利家の皆濟狀に、志津良のうちにかいさうと見えるもの是である。能登名跡志に、『鹿磯村は濱つゞきにて、黑島との間の濱より道下へ登るなり。先年黑島(幕府領)と鹿磯と此濱地論ありて、公方の役人立會にて改り、今は濱に定杭あり。』と記する。

カイゾウイン　海藏院　鳳至郡矢波に在つて、淨土宗に屬する。山號は白狐山。元和四年順譽及信の開基。當寺の境外佛堂が隣邑藤波の小字邊田の濱にあつて、そこに高三七糎の石造藥師如來が安置せられてゐる。能登作佛藥師のうち藤波の灘濱藥師とあるのは是で、室町乃至江戸初期の作と認められる。

カイゾウジ　海藏寺　珠洲郡片岩に在つて、曹洞宗に屬する。元和二年永光寺陽山の開基とある。

カイソノトウエモン　鹿磯の藤右衞門　鳳至郡鹿磯の百姓。前田利家入國の際爲に斡旋したるを以て、天正十年十月高十俵を扶持せられ、爾後子孫世々藤右衞門と稱して山廻役を勤めた。

カイチュウカン　懷忠館　→ソウュウカン　壯猶館。

カイヅオタヤ　海津御旅屋　→カイヅテイ　海津邸。

カイヅテイ　海津邸　近江高島郡海津に古く加賀藩の邸地があつたが、その來歷は全く不明である。古圖によると、縱西方二十間・東方十二間と九間、橫北方九間・南方十一間。その他湖中に高さ七尺の石垣を築き出したもの二區あつて、その一區は一間半と四間半、他の一區は二間と四間半であつた。蓋し大津邸と共に、米穀漕運の便に供したものである。又海津御旅屋ともいひ、その御旅屋守を前田利家の時には松屋孫右衞門といひ、利常の時にはその子孫兵衞に五人扶持を賜ひ、綱紀の世には更にその子孫兵衞が襲ぎ、貞享元年孫兵衞隱居して孫右衞門となり、又その子孫兵衞が襲いだ。

カイヅハンテイノキ　海津藩邸之記　一册。湯淺進良著。近江高島郡海津に松屋孫兵衞というて、前田利家以來加賀藩の廻米支配を命ぜられた家があり、その屋敷裏の湖水に臨んで藩邸のあつた古圖と之に附隨する考證を載せたもの。

カイデンカツヨシ　改田勝喜　通稱平左衞門。慶長三年前田利長に召出されて三百石を受け、大坂再役に從うて青屋口で首一つを獲た。子孫世々藩に仕へる。

カイデンキュウベエ　改田久兵衞　父を島田右京といひ、改田半右衞門の遺知の中二千石を領した。久兵衞は右京の後を受けて改田氏を冒し、三百石を領したが、元和元年大坂の役に五月七日黑門口で戰傷し、十六日に歿した。

カイテンゲンシュ　海天玄聚　石川郡大乘寺第十八代の住持。雪窓祐補の法嗣。寛永九年四月六日八十一歲で寂した。

カイデンハンエモン　改田半右衞門　慶長五年前田利長に仕へて四千石を領したが、七年金澤城火災の際消防に隨うて燒死した。

カイデンマサタカ　改田政殷　通稱主馬。同姓平左衞門の次子で、武兵衞の養子となつたもの。初め實父の分知五十石を受け、元祿十五年武兵衞の跡目として百石を襲ぎ、寶永二年祖父儀兵衞連知の二百石を承けて自分知を除かれ、享保九年更に百石を增し、計三百石となり、その職は御先手物頭に至つた。元文五年五月九日歿、五十三歲。

カイデンマサツネ　改田政庸　通稱猪三郎・正助・才記・主馬。逸角政香の子。祿三百石。大小將・奧小將・御使番より漸く轉じて越中今石動支配になつたが、寛政元年巡見上使御用としてその地に赴き、旅宿で自殺した。齡四十。その子は主馬政成である。

カイデンマサナリ　改田政成　通稱鐵之助・主馬。父主馬政庸は寛政元年自殺した。依つて五年祖父逸角政香の跡目として新知百五十石を受け、組外に班し、前田齊廣の御側小將・表小將を經、享和三年五十石を加へ、次第に昇進して定番頭に至り、文政五年百五十石を加へ、十一年歿した。

カイドウエンガツシュウ　海棠園合集　二册。致堂橫山政孝及びその妻蘭蝶津田氏の詩を集めたもので、文化十二年に上梓した。

カイネンジ　海念寺　河北郡指江に在つて、眞宗東派に屬する。もと道場であつたが、明治十二年六月寺號の公稱を許された。

カイボウ　海防　(一)文化の警戒—外寇の警報が初めて傳へられたは、文化四年四月魯人が蝦夷を侵した時で、六月幕府は、加賀藩領能登が海中に斗出するを以て、外船の來ることなきを保せずとし、命じて之に備へしめた。是に於いて藩侯前田齊廣は、馬廻組頭青